



リメディアル教育でデザインの学びを拓く 東京工科大学

2016年度より工業デザインコースが新設され、さらなる魅力を増した東京工科大学デザイン学部では、いち早くリメディアル教育に取り組んできました。早期に入学が決まった受験生に対しての効果的なスキルアップと学習意欲を高めるプログラムは入学後の学習の取り組みを活性化させています。多様化するデザイン学部の学びに対応すべく進化を続けるリメディアル教育について、酒百宏一准教授にお話を伺いました。

リメディアル教育とは？

一般入試以外（推薦入試、AO入試など）で早期に合格が決まった「入学予定者」に対し、入学までの期間に自宅などでの学習を課すこと。



どのような方にデザイン学部を目指してほしいですか？

本学の教育の特徴として「実学主義」教育が挙げられます。これは、絶えず間なく変化する社会に適應できる豊かな教養と人間性、実践的な学びによる深い専門性を持った人材を育成することを目的としています。特にデザイン学部では、社会で役立つ「もの」や「こと」を実践的に企画立案し、新しい発想でデザインして「かたち」にできる独創的な人材の育成を目指しています。具体的には、デザイン学部での学びにおいて以下のような力を身につけ、社会や産業に役立てたいという強い意志を持った方を求めています。

入試はどのように行われるのですか？

デザイン学部では、みなさんの新しい視点、多彩な才能や可能性を評価するために、実技または学科試験のいずれかで受験できる入試制度を設けています。入学後は本学独自の感性教育により、デザインについて一から学べる学修体制を整えています。また、AO入試などで早期に合格が決まった受験生に対しては、他大学に先がけて「リメディアル教育」を実施してきた実績があります。



リメディアル教育とはどのようなものですか

AO入試などで早期に合格が決まった受験生は、合格から入学までの期間が長く、空白期間が生まれてしまいます。その期間を利用して各家庭で実施できる課題を課し、これからデザイン学部で学ぶにあたって大切なデザインによる思考プロセスに触れてもらうとともに、大学でのカリキュラムにスムーズに対応できる力を身につけていただきます。それらは単に技術的なスキルアップのみを目的としているのではなく、学修に対するモチベーションの維持向上を図ることもねらいとしています。受験生（入学予定者）は添削指導を受けステップアップしながら、3ヶ月間で課題を制作していきます。



東京工科大学デザイン学部のリメディアル教育の特徴を教えてください。

先程述べた本学独自の感性教育では、主に美意識や感性を育む「感性演習」とデジタルを中心とした表現技術を身につける「スキル演習」を融合させた基礎教育をもとに本格的なデザイン制作へと展開していきます。本学のリメディアル教育は、それら大学での学びにつながる準備課題として、「6種類の実技課題」と「4種類の英語課題」により構成されています。例えば実技課題では、自分でデザイン会社を起業したと想定し、その会社のシンボルマークを制作したり、ケント紙で作ったモデルを基にアイデア展開し、公園の遊具のデザイン提案を行うといった、実践的かつ幅広い内容のプログラムが用意されています。こうした課題に入学前に取り組む事によって、デザインの学びに対するモチベーションや学修意欲が高まるとともに、将来自分が携わるデザインの世界においても将来的に国際舞台で活躍するための英語での「コミュニケーション

リメディアル学習は入学前に実施されるのですが、高校生活との両立は可能なのでしょうか？

課題は実技、英語とも2課題ずつ郵送してもらい、添削して返却します。高校での学習や課題を考慮して、基本的には2週間で1課題というペースを設定しています。1日1時間課題に取り組んだとしても、十分に期限内に完成できる分量です。実技課題は今までに経験がない方でも自力でこなせる内容となっていますが、万一の場合は、電話で直接質問できるなどきめ細やかなフォロー体制も整えていますので、安心してリメディアル学習に取り組んでいただくことができます。



デザイン学部の学びで身につく6つの力

